

大学院薬学研究科 4 年制博士課程（医療薬学専攻） 研究指導教員一覧表

専攻分野	指導教員 (所属分野)	主な研究内容
分子病態解析学専攻分野	那谷 耕司 教授 (臨床医化学分野)	ヘパラン硫酸とインスリン産生β細胞の機能、増殖との関連を解析することで、未だ不明な点が多い糖尿病の病態解明を目指す。この研究で得られた糖尿病の病態に関する新たな知見を基に、新たな糖尿病の治療法の開発を試みる。
	奈良場 博昭 教授 (薬学教育学分野)	炎症性疾患に関わる基礎病態を培養細胞などを用いて分子生物学的手法により解明する。また、実験動物を用いた炎症性病態モデルにおいて薬理学的手法を応用した検討も行う。
分子薬効解析学専攻分野	弘瀬 雅教 教授 (分子細胞薬理学分野)	循環器疾患の成因や病態については不明な点が多い事を踏まえて、新たな治療法を開発するためのトランスレーショナルリサーチ（基礎研究成果の臨床応用）を習得する。特に、心房細動を中心とした心臓不整脈発生メカニズム解明のためのトランスレーショナルリサーチを実践し、世界的に通用する研究者となり、世界的に認められた学会にも出席して発表をおこない、議論できるだけの知識と科学的発想、また語学力を身につけ、専門分野の国際誌に論文の公表をおこなう。
	三部 篤 教授 (薬剤治療学分野)	薬物、環境因子や嗜好品が発生段階および組織形成に影響を及ぼすことはよく知られている。しかし、これらの物質がどの段階で、どの細胞に影響を及ぼし、形態形成に影響しているかは殆ど明らかにされていない。各組織における特異的細胞の分化に対する薬物およびその他の因子の効果を様々な実験で検討し、標的細胞および作用時期およびその分子生物学的メカニズムを明らかにする。
薬物療法解析学専攻分野	佐塚 泰之 教授 (創剤学分野)	薬物送達学に関する研究課題を設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。
	小澤 正吾 教授 (薬物代謝動態学分野)	医薬品薬効動態学に関する研究課題を設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。
	杉山 晶規 教授 (衛生化学分野)	分子腫瘍学に関する研究課題を設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。
	工藤 賢三 教授 (臨床薬剤学分野)	がん薬物療法学に関する研究課題を設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。
	高橋 寛 教授 (地域医療薬学分野)	地域医療における薬剤師活動の質の評価に関する研究課題を設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。
	松浦 誠 特任教授 (地域医療薬学分野)	臨床分子薬品学に関する研究課題のうち、医薬品相互作用に関するテーマを設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。
	幅野 渉 准教授 (薬物代謝動態学分野)	ゲノム情報薬学に関する研究課題を設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。
	朝賀 純一 准教授 (臨床薬剤学分野)	医薬品の安全性に関する課題を設定し、研究の立案からまとめに至る指導を行うとともに、学会発表のためのプレゼンテーションに関する指導、学術誌への論文投稿のための論文作成指導を通じて、博士論文作成の指導を行う。